ニューヨーク補習授業校だより

架け橋

令和６年（2024 年）11 月 22 日　　第 26 号　　校長 小島　昇

活気あふれるＷ校「のみの市」

Ｗ校の中高等部生徒が中心となり、中高等部保護者会の皆様にも全面的にご協力いただき、11 月 16 日の授業日に「のみの市」を開催しました。「のみの市」は、クラスや学校全体の団結を強め、連帯感を高めるとともに、地域社会や国際社会に対する関心を高めることを目的として実施するＷ校伝統の中高等部行事です。



今年も中高等部の各学級が、それぞれお揃いのＴシャツを着て、クレープ、かき氷、わらび餅、ポップコーン、抹茶ラテをチームワークよく販売し、どのブースも大盛況でした。保護者提供のベイク品、各家庭から提供していただいたおもちゃや服、本などの販売に加え、生徒たちが準備したゲームコーナーもあり、活気あふれる「のみの市」となりました。また、飲食場所となったカフェテリアや屋外では、購入した物品を笑顔で楽しむ子どもたちやご家族の姿が見られました。



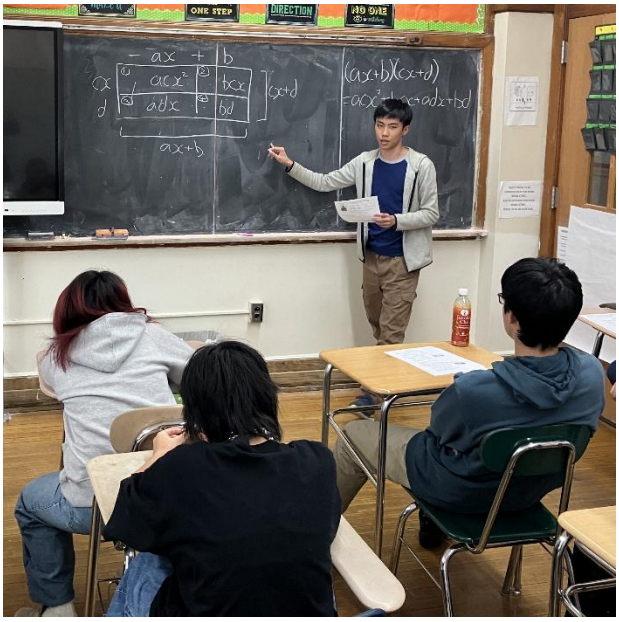
本年度の売り上げは昨年度を上回り、＄６，２００を超えたようです。生徒たちの話し合いにより、売上金を全額、石川県能登町に寄付し、町立松波小学校の教育復興支援に充ててもらう計画です。

地域や国際社会に関心をもち、社会に貢献するという目的、クラスや学校全体の団結を強め、連帯感を高めるという目的は達成されました。

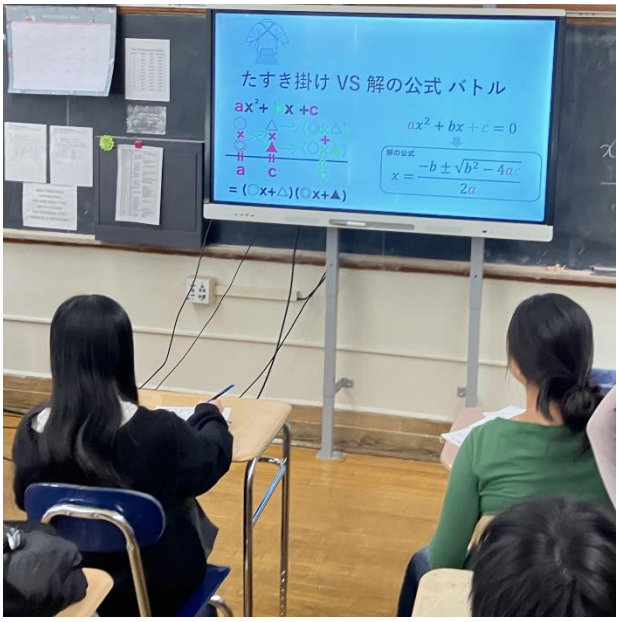




高等部２年生が中等部３年生に数学の授業を実施







ＬＩ校の高等部２年生が中等部３年生に、少し高度な因数分解や２次方程式の解法について授業をしました。高校生になった今だからこそ、中学生に伝えられる学習内容があります。

まず、「たすき掛け」を用いた因数分解や現地校で学んだ因数分解のやり方を高校生が日本語で説明しました。数学の問題をただ解けるようになるだけでなく、日本語で理解し、説明できるようになることが補習校で学ぶ一つの価値であると思います。現地校で学び、補習校でも日本語で学ぶことで多様な見方ができるようになったり、深い理解につながったりします。

今回の学習は、そのことにさらに異学年の学習交流から学ぶという価値も加わりました。上級生は下級生に説明することで、自分の理解をより確かなものとしたり、下級生は上級生から新しい考え方を聴くことで、これまでに学んできたことを確かめたり、新たな学習内容を獲得したりすることができました。

たすき掛けの因数分解を練習した後は、「たすき掛け」チームと「解の公式」チームに分かれて２次方程式を解く速さを競うバトルをしました。たすき掛けの因数分解を学んだ成果で、因数分解ができる問題のときにはどの問題でも「たすき掛け」チームが勝利し、解の公式を使うより因数分解をした方が速く解けることを生徒たちは実感していました。

授業の終盤には、因数分解と式の展開を使ったパズルを楽しみました。普段から学年を越えて仲の良いＬＩ校の高校生と中学生。真剣に学ぶときには学び、楽しみながら学ぶときには笑顔で楽しむ生徒たちの姿が見られ、教室にいて心地よい一時間でした。